

オハラレポート

2016



OHARA
株式会社 オハラ



人と社会の 未来創造のために

私たちは信頼を重視し

独自の高い技術力と最高品質の先端素材で

次世代に向けた変革を実現し

さらなる進化を目指してまいります。

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、最高品質の先進素材を世界中に提供することで、お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。



CONTENTS

オハラの考えるCSR・編集方針	02
トップメッセージ	03
コーポレート・ガバナンス	05
特集1/創立80周年オハラヒストリー	07
特集2/One OHARA宣言	09
事業と社会のつながり	11
社会との調和	12
誠実な活動	13
情報の公開	15
環境の保全	16
社員の尊重	22
会社概要	25
連結決算ハイライト	26

■ 編集方針

オハラレポートは、CSR活動に関する取り組みと事業活動を、よりステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的としています。

特集では、創立80周年を迎えたオハラのこれまでの歴史を振り返るとともに、より良いグループ企業づくりを目指すための社員一人ひとりの使命「One OHARA宣言」をご紹介します。また、2015年度の業績の概況は「トップメッセージ」や「連結決算ハイライト」などにおいて解説しつつ、オハラの継続的な取り組みについては「企業倫理の基本理念」に沿った構成でご報告いたします。

本レポートを通じて、オハラをより身近に感じていただければ幸いです。

■ 報告対象範囲

株式会社オハラ単体の活動を中心に掲載しています。

*ただし、決算数値（P26参照）につきましてはグループ会社を含みます。

■ 報告対象期間

2015年度
(2014年11月1日～2015年10月31日)

*ただし、一部につきましては2016年度の内容を含みます。

■ 発行時期

2016年1月
前回：2015年1月
次回：2017年1月予定

■ 参照ガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版（G4）」
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

■ お問い合わせ先

株式会社オハラ 総務部
TEL：042-772-2101
FAX：042-774-1071
E-mail：info@ohara-inc.co.jp

80年の歴史から引き継ぐべき変革のDNA

オハラは1935年に東京蒲田の地で創業してから、80周年を迎えました。この間、常に時代のニーズに即応したガラス素材を開発・提供することで日本の光学機器・精密機器産業界の発展に寄与してまいりました。現在オハラの製品は、数ミリサイズの顕微鏡用のレンズから、大きいものは直径30mという巨大望遠鏡に使われる分割鏡材料と、まさにミクロの世界から宇宙の果てを観測するまでの幅広い領域で、世界の技術革新を支えています。この80年は、光学レンズ製造の技術革新の歴史でもあり、またオハラの変革の歴史でもあります。

- 1946年：戦後の民需転換、相模原に本社移転
 - 1951年：第一次カメラブーム時にプレス技術を確立し量産需要に対応
 - 1965年：昭和40年不況による写真機業界不況でメガネガラス事業に進出
 - 1970年：公害問題への対応として排水、排ガスの浄化を推進するとともにカドミニウム、トリウムフリー光学ガラスの開発開始
 - 1995年：平成大不況に対し、攻めのリストラでエレクトロニクス事業の基盤づくり。結晶化ガラスによるハードディスク用ガラス基板材の生産・販売を軌道に乗せる
- このように、数々の難局や環境変化を乗り越えて80周年を迎えることができましたことは、ひとえに内外のステークホルダーの皆様より、企業としての存在価値を認

めていただき、支えていただいたお蔭です。

2014年10月よりハワイ島のマウナケア山で建設が開始された、世界最大の天体望遠鏡TMT (Thirty Meter Telescope) に使われている極低膨張ガラスセラミックスも、1970年に開発が着手され、一度は開発中止となっていたOHARAXというゼロ膨張ガラスの技術がベースとなっています。過去の変革時の成果や技術が脈々と引き継がれ、今のオハラを支えています。オハラには、これまでも、そしてこれからも最高品質の素材を提供し続け、世界の技術革新を支えていくという使命があります。

2015年度の営業状況

光事業は、2014年度から続いたデジタルカメラの市場縮小に対し、コスト優位性のある新材料の提案や、より加工付加価値を付けた製品提案(川下化)を推進してまいりました。また、顧客側では生産調整も一段落し、需要減少に一定の歯止めがかかり、若干の増収となりました。エレクトロニクス事業は、半導体露光装置、液晶露光装置がともに堅調に推移し、極低膨張ガラスセラミックス、線用高均質性光学ガラス、石英ガラスいずれも堅調に推移し、売上を拡大いたしました。

損益面では、原料調達ルートの見直しや代替原料の探索など原価低減活動を実施し、また熔解炉の稼働率向上などもあり、改善が見られました。

その結果、2015年度の連結業績は、売上高228億20

百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益5億38百万円(前年同期は3億21百万円の営業損失)となりました。また、経常利益は13億16百万円、当期純利益は5億45百万円となりました。

オハラグループは、経営管理の効率化を図るため、2014年度より連結子会社の決算日を8月31日(一部子会社は9月30日)から、株式会社オハラの連結決算日である10月31日に統一する変更を行いました。これに伴い、2014年度には、当該子会社の2013年9月及び10月の2ヶ月間における業績を反映していますが、比較に際してはこの2ヶ月分の実績を除いた12ヶ月間の数値を使っています。(連結業績についてはP26もあわせてご参照願います。)

2016年度の取り組み

光事業は、デジタルカメラ向けレンズ材の需要回復に不透明感が残る中、ガラスモールドレンズの中でも付加価値の高い中大口径レンズや、レンズ研磨加工品など、川下化による製品ラインナップを強化し利益率の向上を目指します。

エレクトロニクス事業においては、極低膨張ガラスセラミックスは生産設備を増強したことにより、安定生産と確実な納期対応で宇宙・天文分野、露光装置分野で販売機会を逃すことなく拡販を進めます。また、耐衝撃、高硬度クリアガラスセラミックスでモバイルや車載など

多用途への拡販を推進し、既存材料の用途を開拓するなど収益拡大を図ってまいります。

中期経営計画の進捗

オハラグループでは2015年度を初年度とした中期経営計画を推進し、「事業構造の転換」と「新成長ドライバーの構築」という基本方針に基づき、生産戦略として光学ガラスの量産品の台湾工場シフトを加速させています。一方、国内工場では多品種・小ロット生産に対応していくとともに、エレクトロニクス製品の生産・販売増強を進めています。製品戦略では光学ガラス製品の川下化強化の施策のもと、ガラスモールドレンズの製品バリエーションを増やしています。またエレクトロニクス製品分野では、耐衝撃、高硬度クリアガラスセラミックス拡販に積極的な取り組みを行い、2015年12月からは、カメラ用レンズプロテクター向けの素材の供給を開始いたしました。

数値目標ですが、当初中期経営計画3年目は、売上高280億円、営業利益16億円以上としていました。しかしながら、光学レンズ材の主要市場であるデジタルカメラの交換レンズの需要回復には、いまだ不透明感が残り、また新製品による売上寄与のスピード感も想定より遅れが生じていることから、2017年度の数値目標を売上高240億円、営業利益10億円といたしました。

コーポレート・ガバナンスの強化

オハラは、「常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します」を経営理念として定め、これに基づいて事業活動を行っています。

この経営理念を実現するために必要な「経営の透明性・公正性・迅速性」の向上に向け、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化に努めます。

そのため、後程ご説明するコーポレートガバナンスに関する基本方針を定め、ガバナンス体制を刷新、強化し経営の透明性と実効性を向上させ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。

この基本方針に基づき、一般株主との利益相反の生じる恐れのない人材を独立社外取締役として2名置き、業務執行の監督機能の強化を図ってまいります。また、新たに執行役員制度を導入し、事業活動における迅速な意思決定を行います。

コーポレート・ガバナンスを強化するとともに、80年の歴史で培った変革のDNAをしっかりと引き継ぎ、「事業構造の転換」と「新成長ドライバーの構築」を経営テーマとし、取り組んでまいります。



代表取締役 社長執行役員

齋藤 弘和

経営基盤を整備し、事業を行う国や地域のルールを遵守した公正な事業活動を推進します。

コーポレート・ガバナンスに対する取り組み

■ コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

1. オハラは、「常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します」を経営理念として定め、これに基づいて事業活動を行っています。
オハラは、この経営理念を実現するため、社内組織体制や経営管理上の仕組みを整備し、必要な施策を実施しています。また、株主、顧客、社員、地域社会などの様々なス

テークホルダーの皆様に対して、社会の公器としての責任を果たすことが、結果として、企業価値の最大化につながるということを強く認識し、企業倫理に即して透明性及び健全性が確保された経営を行うことが、オハラの考えるコーポレート・ガバナンスであります。
2. オハラは、次に掲げる考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいきます。

- (i) 株主の権利を尊重するとともに、平等性を確保する。
 - (ii) 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
 - (iii) 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
 - (iv) 取締役会は、独立した客観的な立場から経営陣・取締役に対する実効性の高い監督を行う。
 - (v) 株主との目的を持った建設的な対話を実現するため、双方向のコミュニケーションの充実に努める。
- オハラは、以上の考え方に基づいて「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を定めています。
※「コーポレートガバナンスに関する基本方針」の詳細についてはウェブサイトをご参照ください。

■ 取締役会の改革

取締役会は、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督を行っていますが、執行役員制度導入と同時に取締役5名を減員する一方、独立した客観的かつ多様な視点からの経営の監督・チェック機能の一層の強化を図るため、新たに独立社外取締役2名を選任しました。その結果、取締役の員数は8名となり、うち4名が社外取締役となったことで、社内取締役と社外取締役は同数となりました。これらにより、監視・監督機能が一層強化され、より実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築を図っています。

■ 取締役の報酬体系の見直し

役員の職責を考慮した「基本報酬」、年度目標に連動し役員個人の業績・寄与に対する「変動報酬」、中長期目標の達成と株主利益の増大に対する動機付けとしての「中長期インセンティブ報酬」(株式報酬) からなる報酬体系(業務執行を行わない取締役は除く)といたしました。

コンプライアンス強化に向けた取り組み

■ コンプライアンス推進体制

企業倫理の基本理念に則った「行動指針」を定めています。「倫理・コンプライアンス委員会」ではこの行動指針に従い、社員が法令を遵守するだけでなく、高い倫理観を持って公正かつ適正な事業活動を遂行するよう、各種社内セミナーを継続的に実施しています。

行動指針

1. 倫理やコンプライアンスに照らして問題のある行動・活動には関与しない。
2. 違反、逸脱、過失等は素直に認め、速やかに是正措置と再発防止措置を講じる。
3. オハラグループのすべての役員及び社員に対して十分な教育とその成果の確認を継続して行う。
4. 内部監査方針にもとづき、すべてのオハラグループ組織において毎年度、適切な自己監査を行う。
5. 経営の優先課題として、コンプライアンス強化に向けた活動を積極的に取り組む。

■ 行動規範「ガイドライン」

企業倫理の基本理念及び行動指針に基づき、事業活動において遵守すべき法令などの主要項目、対応方針及び注意事項などを具体的に明記したものを行動規範「ガイドライン」として定め、全社員に対して社内イントラネットを活用した啓発活動を行っています。

リスクマネジメントに対する取り組み

■ リスクマネジメント体制

オハラグループのリスク管理方針に従い、「リスク管理委員会」を中心に、リスクマネジメントを推進しています。

■ 事業継続計画の継続的な改善

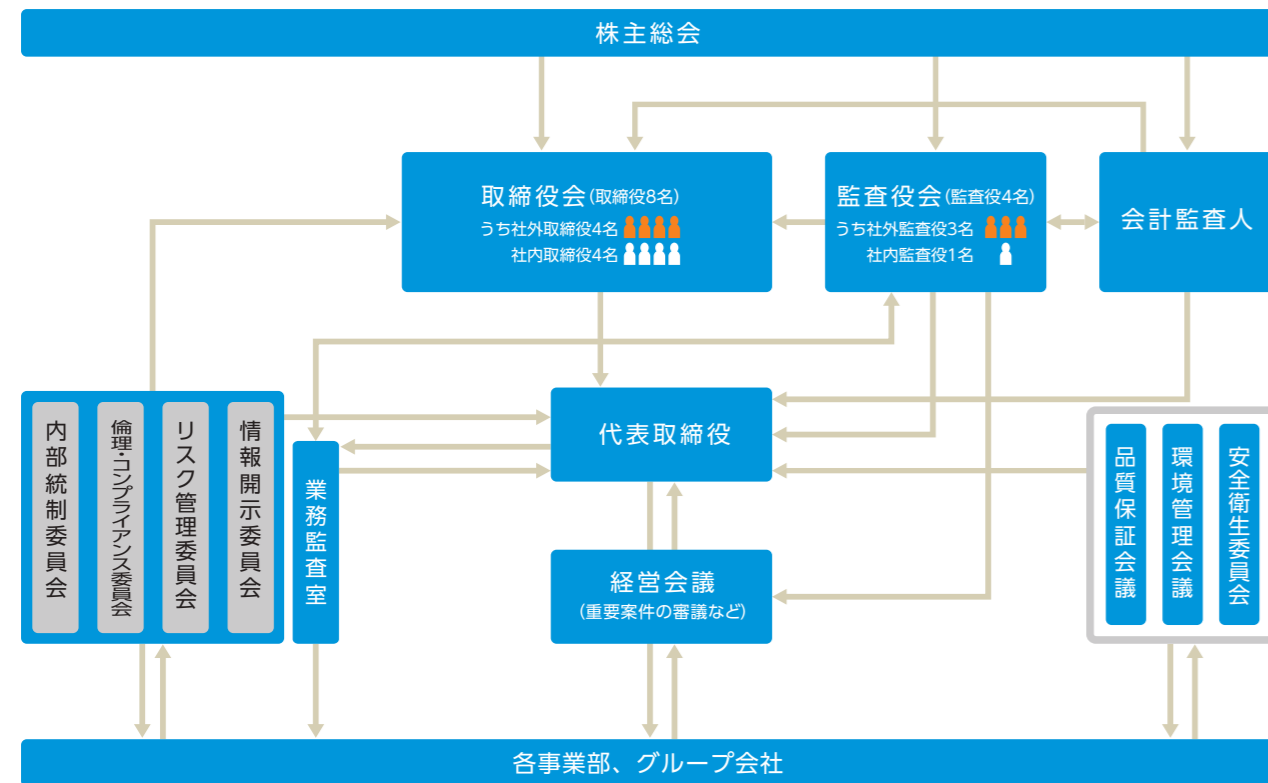
円滑な事業活動や経営上の目標を妨げる要因となる自然災害などの緊急事態に備え、事業継続計画を策定し、原則毎年見直しを行っています。

■ 事業リスクへの対応

近年、企業を取り巻く環境の変化は激しく、会社経営に影響を与えるリスクも大きなものとなっており、適切なリスク管理体制が求められています。
2012年度より、リスク管理の対象をグループ会社全体に拡大し、2015年度も引き続きリスクの評価・対応策の見直しを行うことで、リスク管理の充実を図っています。特に、2015年8月に発生した中国天津の爆発事故を教訓に、安全管理体制の見直しはもちろんのこと、物流停滞リスクへの対策についても追加いたしました。

また、2013年6月に日本、中国に続くオハラグループ三番目の光学ガラス製造拠点として台湾小原光学材料股份有限公司が稼働を開始したことにより、BCPの観点からもより安定した光学ガラス供給体制を構築しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



おかげさまで、オハラは創立80周年を迎えました。私たちの歩みをご紹介します。

創立80周年 オハラストーリー

1935
10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始



1936
11月：光学ガラス熔解開始



1944
2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設

1954
5月：白金坩堝熔解開始

1958
4月：ランタンガラス生産開始

1961
1月：連続熔解ストリップ方式生産開始

1965
10月：連続熔解ダイレクトプレス生産開始

1969
7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載



1975
8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始

1976
5月：ガラスビーズ生産開始

1979
2月：ランタンDP(ダイレクトプレス素材)生産開始

1982
3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロムビア号に搭載

1983
3月：ステッパー用ハイホモガラス($\Delta nd \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始

1985
5月：株式会社オハラに社名変更

1987
3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始

1988
6月：装飾ガラス販売開始

1984
3月：高エネルギー物理学研究所ヘチレンコフガラス納入開始



1985
5月：株式会社オハラに社名変更

1987
3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始



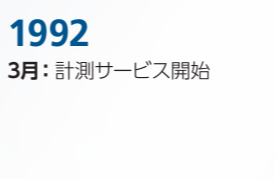
1988
6月：非球面モールド投光素子本格生産開始



1991
9月：環境対策光学ガラス生産開始



1992
3月：計測サービス開始



1993
3月：極低膨張ガラスセラミックス生産開始



1994
11月：HDD基板用ガラスセラミックス生産開始

1996
10月：ハードディスク部門ISO9002の認証取得

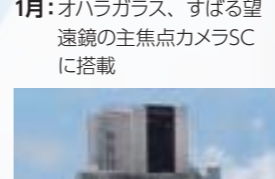
1997
3月：推奨112種類(当時)のすべてをエコ化

1999
6月：磁気ヘッド浮上高測定用ガラスディスク生産開始

1998
4月：全部門ISO9001の認証取得

1998
10月：高屈折低比重メカネ用ガラス生産開始

1999
1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載



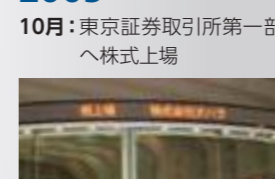
2000
10月：光学ガラス部門及び特殊ガラス部門ISO9002の認証取得

2000
7月：高膨張ガラスセラミックス生産開始

2000
1月：低光弾性ガラス生産開始

2002
6月：大規模連続熔解開始

2005
10月：東京証券取引所第一部へ株式上場



2006
11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用等)生産開始

2007
1月：本社棟竣工



2007
2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用等)生産開始

2007
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載



2012
8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載

2014
3月：極低膨張ガラスセラミックス、TMT天体望遠鏡に採用



2015
10月：創立80周年



『100年』
さらなるその先に
向かって

さらなる飛躍を目指して
One OHARAとして
グループ一丸となり、
培ってきた技術と品質で、
『人と社会の未来』へ
貢献していきます。

1935~

1950~

1975~

2000~

2015

製品トピックス

その① 2013 固体電解質基板発売開始

2013年5月リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス基板(LICGC™)の発売を開始しました。安全・安定な材料でありながら、リチウムイオンのみを通すため、安全で高性能な次世代電池のキー材料として貢献しています。

将来の高性能・多様化する蓄電技術に対応した製品を市場投入することで、高効率なエネルギー社会の発展に寄与していきます。



その② 2015 交換レンズ用 低分散系 中大口径非球面レンズの採用

交換レンズやプロジェクターを高性能化するキーパーツとなる低分散系中大口径非球面レンズに採用されました。レンズの色再現性の向上、コンパクト化、軽量化の実現及び4K、8K撮像・投影系に貢献しています。

硝材メーカーの強みである、新領域の硝材開発と連動して新たな非球面レンズを提案し、車載用カメラや監視用カメラも含めたレンズ市場へ貢献していきます。



その③ 2015 耐衝撃、高硬度クリアガラスセラミックス発売開始

2015年12月耐衝撃、高硬度クリアガラスセラミックスの発売を開始しました。ナノ結晶化技術により、ガラスセラミックスの概念を覆す高透過率、従来の化学強化ガラスやサファイアガラスを超える耐衝撃性を実現し、キズがついても、破壊の原因となるクラックが発生しづらく、割れにくい特性があります。すでに国内メーカーにてカメラレンズ用プロテクターに採用されており、今後はモバイルや車載など多用途への拡販を展開する予定です。これからも技術を革新する製品を提供していきます。



One OHARA宣言

オハラグループは、より良い企業づくりを目指しています。各グループ会社で働く個人の使命（日々意識していること）をご紹介します。



小原光学 (中山) 有限公司
品質保証課
楊永琴

私の使命 細心、真心、用心の品質管理でお客様に安心をお届けします。

台灣小原光學股份有限公司
営業部営業課
吳心平

私の使命 各部門とのつながりをうまくして、お客様の需要を満たす意識を持って行動します。

株式会社オハラ・クオーツ
和歌山工場 製造部
山並大輔

私の使命 言葉使いと礼儀を正しくして、気を利かすことを心がけています。

株式会社オハラ
光製品事業部光製品BU光製品営業課
鯨岡聡友

私の使命 顧客ニーズの実現とともにオハラの発展に向け、常に前向きな姿勢で行動しています。

OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.
品質保証課
黄俊棕

私の使命 グループ会社との交流を通じ、さらにSMARTゴール概念を適用し品質保証体制のステップアップを目指します。

小原光学 (香港) 有限公司
営業部
郭雅媛

私の使命 電話はすぐに出て、お待たせしないよう丁寧な対応を心がけています。

小原光学 (中山) 有限公司
生産管理課
任立祥

私の使命 生産と納期を常に考え、速やかにお客様の質問に回答します。

台灣小原光學股份有限公司
営業部営業課
陳惠君

私の使命 自らの業務のみならず、多能工政策による総務課への協力も行っています。

華光小原光学材料 (襄陽) 有限公司
品質保証課
韓華瑞

私の使命 私達の企業文化である“チームワーク”を大切に、いつも社員同士がよい協力関係を築くため、常に謙虚な態度を忘れないように心掛けています。

Ohara Corporation
営業部
Chris Ghio

私の使命 グループ内で最新情報を共有し、最高のサービス提供と新規ビジネス創出を進めています。

Ohara Corporation
営業部
Janet Knilans

私の使命 One OHARAのために顧客サービスと価格競争力を有したりリピートビジネス確保に注力しています。

台灣小原光學材料股份有限公司
業務部品質管理課
潘秀玲

私の使命 自分のできないことに最善を尽くして諦めず、一生懸命勉強します。

株式会社オーピーシー
製造サイト製造第3グループ
久保文彦

私の使命 OHARAグループの一員としての自覚を持ち、常に世界一の物作りにチャレンジします。

華光小原光学材料 (襄陽) 有限公司
技術課
孟千

私の使命 オハラ品質を造りあげる技術員として、常にお客様が満足する製品をお届けするために、チーム一丸となって取り組みます。

足柄光学株式会社
製造部
石田新治

私の使命 常にお客様の要望・要求に応え、どのような材料にも対応し、品質向上に努力しています。

台灣小原光學材料股份有限公司
製造二部製造二課
蕭元勳

私の使命 自己反省の時間を持ち、今回は前回より進歩しているかを常に意識しています。

株式会社オーピーシー
管理サイト営業グループ
王佳

私の使命 グループの方々とのチームワークを大切にして、スピーディな顧客対応を心がけています。

株式会社オハラ
光製品事業部光材料BU硝材生産管理課
川田友紀

私の使命 課題解決に向け、周りの人たちも巻き込み、自ら積極的な行動を心がけています。

OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.
人事課&総務課
ジャミラ フッセン

私の使命 多民族が働く良さを活かし、チームワークを強化し、One OHARAへ貢献していきます。

小原光学 (香港) 有限公司
営業部
曾永忠

私の使命 お客様のことを第一に考え、お客様にとっての一番を常に考え行動しています。

OHARA GmbH
経理部
Olga Henriques

私の使命 笑顔で前向きな対応を行い、国際ビジネスの場で働くことに誇りを持っています。



プロジェクター



大型望遠鏡



監視カメラ

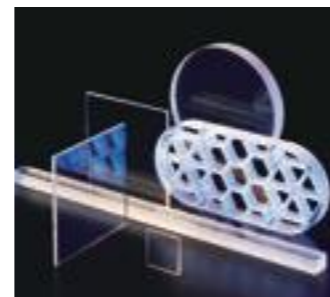
光事業

光学ガラスは、デジタルカメラ・プロジェクター・TVカメラ・車載カメラ・監視カメラなど様々な光学機器に使用されています。オハラでは光学ガラスに含まれる有害物質や希少元素の削減をいち早く進めてまいりました。また、エネルギー消費量や炭酸ガスの発生を抑制させるために、より低い温度で成形できるガラスモールド用低Tg光学ガラス開発を推進し、環境保護に貢献してきました。オハラが提供する最高品質の先進ガラス素材は、世界中の人々の笑顔や感動をサポートしています。



エレクトロニクス事業

光学ガラスで培った技術をもとに開発されたオハラの特殊ガラスは、半導体/液晶露光装置用部材、光通信フィルター用サブストレート、精密測定用基板、装飾用など幅広い分野で使用されています。また、石英ガラスはVAD製法による高品質な合成石英を提供しています。さらに様々な固体電解質としての応用が可能なりチウムイオン伝導性ガラスセラミックスの販売も行っています。今後も最先端分野へ採用されるべく、新たな製品の開発、品質向上を目指していきます。



TOPICS OPIE '15 宇宙・天文光学EXPO 2015年4月22日~24日

パシフィック横浜において開催された「OPIE '15 宇宙・天文光学EXPO」は国内で唯一の宇宙・天文関係の展示会であり、専門技術者が年に一度、一堂に会します。3回目の出展となる今回はi線用高均質性光学ガラス、極低膨張ガラスセラミックスを中心に、大口径ガラスモールドレンズや耐放射線光学ガラスなどを展示し、また世界最大の天体望遠鏡TMT (Thirty Meter Telescope) に対する注目度も日々高まっていることから多くの来場者にオハラブースを訪問していただきました。



OPIE '15 宇宙・天文光学EXPOの様子



デジタルカメラ



液晶テレビ

地域社会や、国際社会との共生の上にオハラの事業活動は成り立っています。社会との調和を大切に「良き企業市民」として社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

地域環境活動への参加

2015年度の主な取り組み

	5月	6月	6月	10月	12月
行事	相模原市民若葉まつりにて かんきょうフェア2015 (相模原市立環境情報センター)	相模川クリーン作戦 (高田橋)	さがみはら環境まつり (社のホールはしもと)	相模川クリーン作戦 (高田橋)	自然観察ウォッチング (環境写真教室) (相模原麻溝公園)
活動	運営に参加	相模川を愛する会 主催の清掃活動に参加	協賛・運営に参加	相模川を愛する会 主催の清掃活動に参加	運営に参加

社会貢献活動

工場見学・職場体験の受け入れ

オハラは地域社会貢献活動の一環として、近隣の学校を中心に工場見学などを受け入れています。2015年度は小学3年生105名が工場見学に訪れ、普段見ることができない製造工程1つ1つに目を輝かせていました。また中学生も1年生7名が訪れ、製造業に対する理解を深めるため働く人の姿に触れ、モノづくりを通して、暮らしやすい社会づくりを考えるよい機会となりました。



工場見学の様子(小学生)

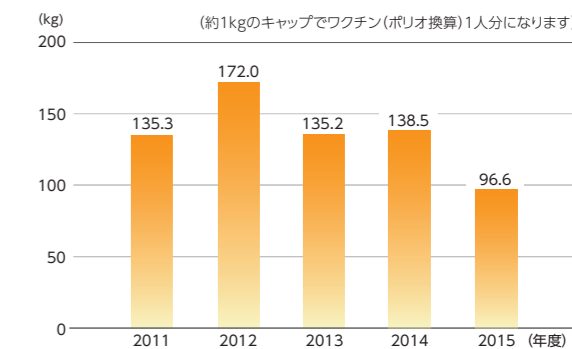


工場見学の様子(中学生)

NPO・NGOとの協働

オハラはペットボトルキャップや空缶プルトップ、使用済み切手を回収し、NPO法人などに寄付しています。今後も社員一人ひとりの善意によってこれらの活動を継続していきます。

ペットボトルキャップ寄贈推移



最高品質へのこだわりを持ち、お客様に満足いただける製品を提供していきます。

品質管理によるお客様満足度の向上

オハラは、お客様にご満足いただける製品を提供することを目的とし、1996年にISO9000シリーズを取得して以来、品質マネジメントシステムに基づいた品質保証体制を運用しています。

■ 品質方針

下記の品質方針を定め、これを基本として品質管理活動を行っています。

品質方針

株式会社オハラは最高品質へのこだわりを持ち、たゆまぬ技術革新で「人と社会の未来創造」へ貢献するため、事業活動に携わる総ての人々が以下の指針で常に「顧客への満足の提供」を行います。

指針(抜粋)

- 顧客の信頼と満足
- 顧客要求の確認
- 品質マネジメントシステムの確立と継続的な改善
- 品質の造り込み
- 品質方針は、全従業員に周知徹底する

■ 品質マネジメントシステム

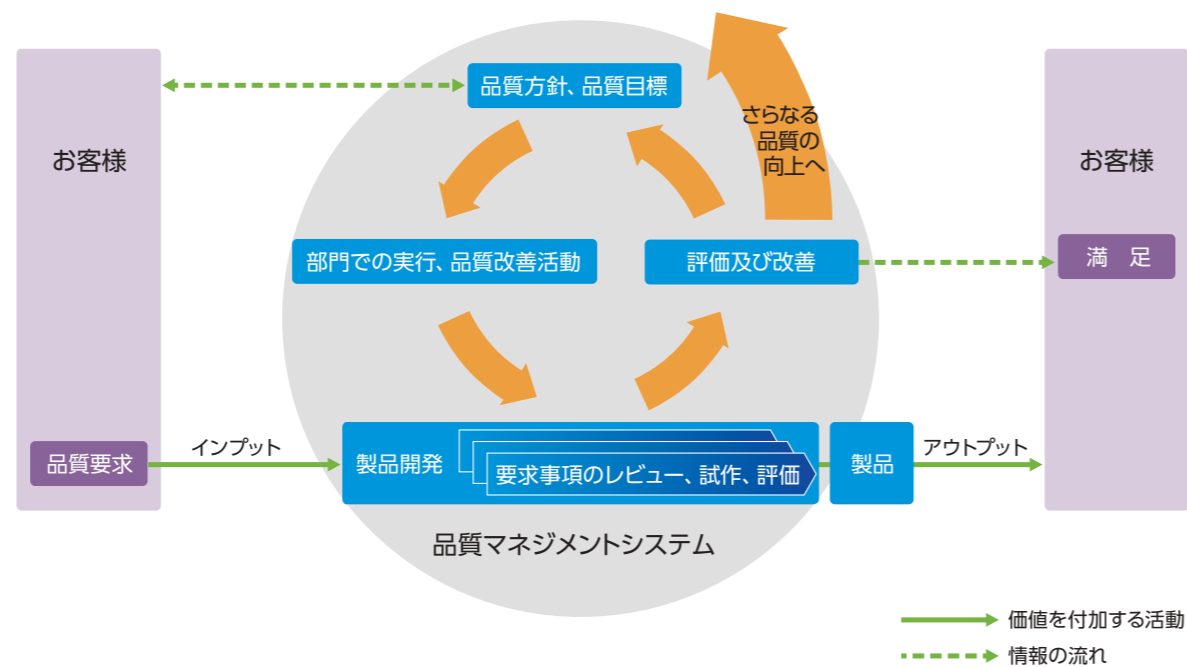
品質方針を実現するため、全部門で品質目標を定め、その達成に向けて全社員が一致協力して活動しています。活動の成果を定期的に確認するとともに、年間の活動成果を「品質保証会議」でトップマネジメントがレビューし、さらなるスパイラルアップへつなげています。

■ お客様の声を反映させる仕組み

オハラは、お客様の要求品質をいち早くキャッチするため、設計及び試作段階からお客様と定期的に品質に関する打合せをさせていただき、情報交換を行っています。また、お客様よりいただくオハラの製品の品質に関する評価データは品質保証部門を中心に分析され、課題を改善するための貴重な情報源となっています。これらの情報をいち早く品質保証部門から生産部門に伝達して具体的に製品に反映させるとともに品質マネジメントシステムの改善につなげ、さらなる品質向上を目指しています。

報源となっています。これらの情報をいち早く品質保証部門から生産部門に伝達して具体的に製品に反映させるとともに品質マネジメントシステムの改善につなげ、さらなる品質向上を目指しています。

品質マネジメントシステム(QMS)の概念図



■ 品質を支える人材の育成

お客様の品質に対する要求の高度化や多様化が進む中で、良い製品やサービスを提供していくためには、品質保証部門だけでなくすべての部門の協力が必要であり、そこで働くすべての人々の品質管理に関する意識、能力が重要となってきます。そして、品質管理能力・改善能力を発揮するための一番の基本は品質管理に関する知識です。

オハラでは、2015年度にカタログ、測定技術などの基礎技術に関する社内講習を行い、製品及びサービスの品質向上に係わる部門の社員192名が聴講し、日常の品質管理に役立てています。

■ 国内・海外における管理活動

お客様の活動範囲が海外にも広がっている現在、国内だけではなく海外のお客様へ供給される製品の品質保証も重要となっています。お客様にオハラの製品を信頼していただくために、国内及びグループ会社や協力会社に対しても品質改善活動を展開しています。

具体的には、グループ会社や協力会社とQC(品質管理)工程表や品質保証協定書を締結し、オハラと協力会社間の品質管理の仕組みを構築するとともに、各社工程の定期審査により品質管理水準を向上させています。2015年度は23のグループ並びに協力会社の監査を行いました。

サプライヤーとの協働

オハラは、優良な品質かつ適正な価格で原材料や資材を調達しています。

オハラの調達方針

下記の調達方針を定め、これを基本として調達活動を行っています。

- 1. 誠実な企業活動:** オハラは、法律や社会規範を遵守し誠実な企業活動を行います。また、調達先にも、同様に法律や社会規範の遵守を要請します。
- 2. 門戸を開放した調達:** オハラは、長期的、国際的視野に立ち、広く内外に開かれた調達活動を行います。
- 3. 公正な取引の推進:** オハラは自由競争の原則に基づき、品質、経済性、納期、企業の信頼性等について優れた調達先を優先します。
- 4. パートナーシップに基づく調達:** オハラは調達先との相互理解を深め、信頼関係を構築し、これを維持することに努めます。
- 5. グリーン調達:** オハラは地球環境保全の為に、使用中から廃棄に至るまで、環境に与える影響を考慮した調達品を優先すると共に、調達品の製造工程においても、環境保全に積極的に取り組んでいる調達先を優先します。
- 6. 私的利益受領の禁止:** オハラでは、不適切な利益授受を目的とした接待や贈答品の提供を受けることをいたしません。

お取引先へのお願い

お取引先とのパートナーシップのもと、お客様の満足を追求し、かつ社会的責任を果たすため、お取引先の皆様には以下の項目への取り組みをお願いします。

- 1. 法令・社会規範の遵守:** 事業を行う国や地域の法律や社会規範の遵守をお願いします。
- 2. 社会貢献の推進:** 国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、「良き企業市民」として積極的に社会貢献への取り組みをお願いします。
- 3. 環境への配慮:** オハラの環境方針をご理解いただき、事業活動・調達活動における環境保全への配慮をお願いします。
- 4. 情報セキュリティの確保:** オハラとの取引を通じて知り得た情報が漏洩しないよう管理の徹底をお願いします。
- 5. 品質の確保:** オハラの求める仕様・品質を満たす資材、原材料等の提供をお願いします。
- 6. 適正価格での提供:** 市場競争力のある価格での資材、原材料の提供と、継続的な価格低減努力の推進をお願いします。
- 7. 確実な納期の確保と安定供給への対応:** 製品の継続的な供給と急激な需給変動の要請に応じるため、確実な納期の確保と、安定的かつ柔軟な資材、原材料の供給体制の整備をお願いします。
- 8. 安定した経営基盤:** 継続的かつ安定した資材供給確保のため、経営基盤安定化の推進をお願いします。

■ 紛争鉱物に関する取り組み

コンゴ民主共和国及びその隣接国である「紛争地域」から採掘された鉱物(タンタル、タングステン、金、スズ)は「紛争鉱物」と呼ばれ、現地武装勢力の直接的、または間接的な資金源となることが懸念されています。

この問題に対し、企業にはグローバルなサプライチェーンでの責任ある取り組みが強く要請されています。オハラは、

調達活動における社会的責任を果たすため、製品に含まれる鉱物使用状況の調査を実施する一方、ウェブサイトに取り組み姿勢を内外に表明するとともに、お客様からの調査依頼に誠実に対応するなど、「紛争鉱物」の不使用に向けた取り組みを進めています。

社会からの正しい理解と支持を得られるよう、企業情報の適時・適切な開示を通じて、誠実に透明性の高いコミュニケーションに努めます。

情報開示の取り組み

オハラは、企業倫理の基本理念に基づき、情報開示の基本方針を定めています。

情報開示の基本方針

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 透明性 | 4. 公正性 |
| 2. 関連法令及び規則の遵守 | 5. 継続性 |
| 3. 機密性確保と開示の適時性 | 6. 機密性 |

■ 個人情報の保護に関する取り組み

オハラは情報資産の万全な保護と厳密な管理に向け、「個人情報保護規程」を制定するとともに、ウェブサイトにて「個人情報保護方針」を掲載しています。

また、行動規範「ガイドライン」にも個人情報の保護について記載し、社内への周知徹底を図っています。

個人情報保護方針

1. 基本方針

株式会社オハラ(以下弊社)はお客様よりお預かりしております個人情報を保護し、これに関わる関係法令を遵守致します。

2. 個人情報の取り扱いについて

弊社は、個人情報漏洩、紛失等の対策として、社内における取り扱いのルール策定、外部からの不正アクセス等への対策は講じておりますが、現状に満足することなく、対策の維持は勿論、保護強化のため改善に努めて参ります。また原則として、お預かりした情報を第三者に公開又は提供することはありません。また、個人情報をお預かりする際には、利用目的を明確にした上でお預かりさせていただきます。万が一お客様よりお預かりした際の利用目的と異なる目的で利用させていただく場合には、お客様に改めて利用目的を連絡させていただいた上で、可否を確認させていただきます。

3. 個人情報の開示について

弊社は、お客様ご自身からの開示、訂正、利用停止、消去等の請求が発生した場合、速やかに請求内容を確認させていただいた上で対応させていただきます。なお、請求を受け付ける際、本人確認をさせていただく事となりますので、その点何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。また、上述の請求についての詳細は、下記受付窓口までご連絡ください。

4. 受付窓口

株式会社オハラ 総務部 総務課
TEL : 042-772-2101 FAX : 042-774-1071
E-mail : info@ohara-inc.co.jp

ステークホルダーとのコミュニケーション

■ 株主・投資家とのコミュニケーション

毎年1月下旬に開催している定時株主総会や、年1回発行の経営成績やトピックスを記した「オハラレポート」、また機関投資家の皆様を対象とした決算説明会、IR担当部門による個別取材対応などにより、迅速な情報開示と対話に努めています。



決算説明会

■ お客様とのコミュニケーション

お客様とのコミュニケーションツールとして、光学ガラスポケットカタログや光学ガラス光学設計指標マップ、オハラ光学データアプリ、また会社案内なども発行しています。

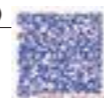


コミュニケーションツール

- 会社案内
- 光学ガラスポケットカタログ
- 光学ガラス光学設計指標マップ
- オハラレポート
- ウェブサイト
http://www.ohara-inc.co.jp/
- オハラ光学データアプリ

Android版 (Ver4.0~4.3)

「Google Play」にて「オハラ」で検索



iOS版 (iOS7以降)

「App Store」にて「オハラ」で検索



■ 社員、定年退職者とのコミュニケーション

社員への経営方針の伝達、浸透及び社内の活性化を目的として、社内報「オプトピア」を年4回発行しました。

また、定年退職者を対象にした光樹会を2010年10月に発足し、親睦会を開催しています。

かけがえのない地球を大切に、企業活動のすべての側面で積極的に環境保全に取り組みます。

環境マネジメント

オハラは企業活動と地球環境との調和を目指し、環境理念と方針を掲げ、様々な取り組みを推進しています。

■ 環境理念と方針

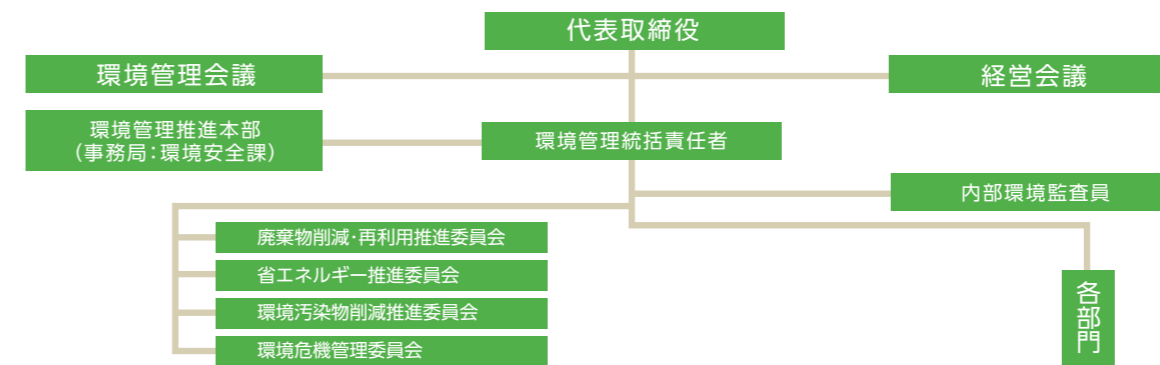
理念

株式会社オハラは「持続可能な発展」の国際的理念のもと、企業活動と環境の調和を経営の重要課題のひとつとして位置付け、国際規格に則った環境マネジメントシステムを全員で継続的に改善し、これまで構築した光とエレクトロニクス、環境・エネルギー分野での技術を生かした事業活動を通して、環境マネジメント活動を積極的に推進し、広く社会に貢献します。

方針

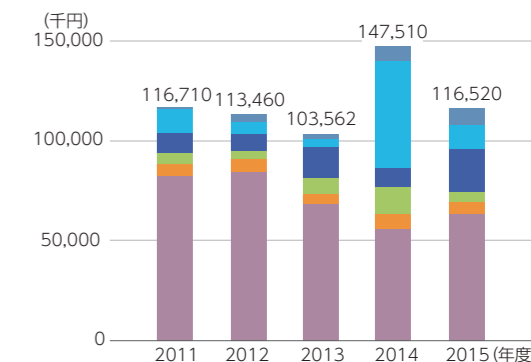
- 該当する国、地方自治体の環境に関連する法規制の遵守、及び業界等の行動規範を遵守するとともに、自主基準を制定して管理し、より一層の環境改善を進めます。
- 環境負荷の低減ならびに環境汚染の予防をグループ会社全体で推進します。
 - 廃棄物の削減・再利用、省エネ・省資源の推進を行います。
 - 有害物質の代替えなどで、より環境負荷の少ない施策を推進します。
- 地球環境の改善に積極的に貢献する製品の開発・供給を推進します。
- 国際的な規則・規制や当社が同意する顧客の要求を遵守し、製品含有化学物質の管理体制を強化します。
- 地域社会、取引先及び関連団体との協調連帯を図ります。
- 環境マネジメントシステムの運用で、環境目的、目標を設定し、定期的な見直しを図りながら環境方針を実行・維持するとともに、事業所内で働くすべての要員に周知徹底を図ります。また、本方針は一般に公開します。

■ 環境活動推進体制



■ 環境保全コスト

環境保全コストのうち、半分以上を廃棄物処理コストが占めています。しかしながら数年前と比較して確実に比率が低下しています。これは生産量の減少が大きな要因と考えられますが、それ以外に今まで廃棄されていたガラスを再利用するなど、様々な活動が成果として表れてきているといえます。



- その他
- 環境改善コスト
- 公害防止コスト
- 環境分析コスト
- 敷地美化コスト
- 廃棄物処理コスト

2015年度環境目標・活動結果及び2016年度環境目標

これまでは活動結果が生産量に大きく左右されやすい目標設定となっていました。2015年度は各職場での活動状況を評価しやすい目標に設定して取り組んでまいりました。厳しい事業環境ではありませんが、全体的に良好な環境負荷の低減結果となりました。

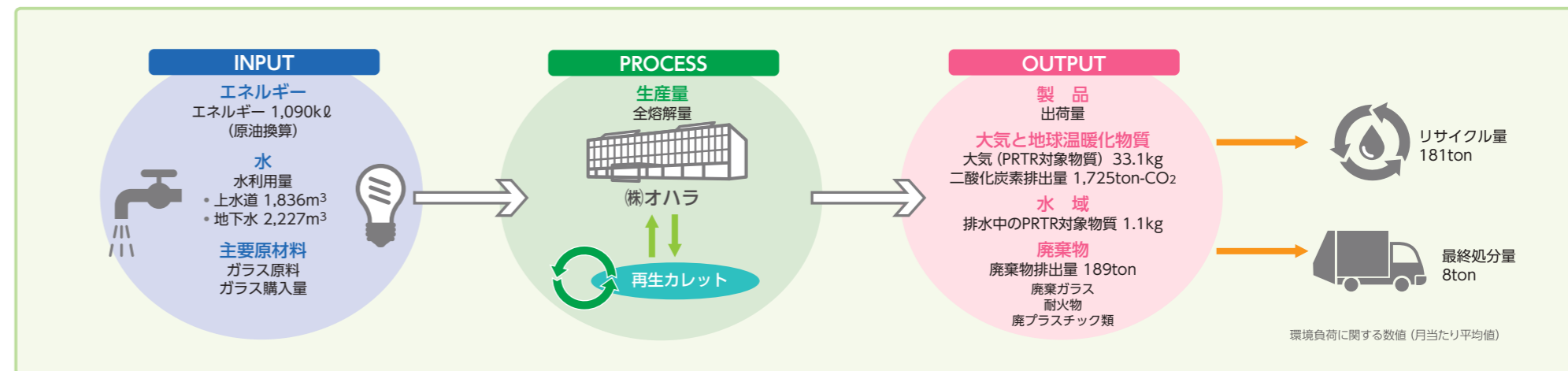
2016年度もさらなる環境負荷の低減を目指し、全社一丸となって取り組んでいきます。

目標達成度：●●●●=100%以上 ●●●=75~99% ●●=74%以下

項目	2015年度環境目的・目標	活動結果	目標達成度	2016年度環境目的・目標
廃棄物の削減・再利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄ガラス原単位1%削減(2014年度比)とし、引き続き、品種切替の効率化、製品歩留の向上などの取り組みを進め、廃棄ガラスの発生防止に努めます。 ● その他の廃棄物の削減・再利用活動を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産量が約15%増加(2014年度比)しているのに対し、廃棄ガラス量は約5%減少させることができました。製品歩留向上対策の成果が表れてきているといえます。 ● 海外を含めたグループ会社の取り組み内容をまとめ共有化しました。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄ガラス原単位1%削減(2015年度比)とし、引き続き、品種切替の効率化、製品歩留の向上などの取り組みを進め、廃棄ガラスの発生防止に努めます。 ● その他の廃棄物の削減・再利用活動を推進します。
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー原単位1%削減(2014年度比)を目標に活動を進めます。 ● その他の省エネルギー活動を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 溶解炉の集約や生産体制の変更、また溶解設備の省エネタイプへの改造などによる成果が表れ目標原単位を達成しました。 ● 海外を含めたグループ会社の取り組み内容をまとめ共有化しました。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー原単位1%削減(2015年度比)を目標に活動を進めます。 ● その他の省エネルギー活動を推進します。
地域社会の環境調和	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模川クリーン作戦への参加 ● 総人員(派遣を除く)の13%以上の参加 ● 他の環境保全活動へ参加(相模原の環境をよくする会他) ● 環境関係セミナーへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年春と秋に相模川(河川敷)の清掃活動が行われています。オハラでもこの活動に社員とその家族も含めたべ119名/年(16.9%)が参加しました。その他、他社主催の社会貢献活動、環境関連セミナーなどの活動に参加しています。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模川クリーン作戦への参加 ● 総人員(派遣を除く)の13%以上の参加 ● 他の環境保全活動へ参加(相模原の環境をよくする会他) ● 環境関係セミナーへの参加
	<ul style="list-style-type: none"> ● 社内美化(景観・美観)の維持、向上を推進します。 ● 工場周辺ゴミ拾いの参加率20%向上(2014年度比) ● 構内外の巡視 月1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的な啓蒙活動の実施により工場周辺ゴミ拾いの参加率は22.5%向上し目標を達成しましたが、構内外の巡視は未達成となりました。 	●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 社内美化(景観・美観)の維持、向上を推進します。 ● 工場周辺ゴミ拾いの参加率20%向上(2015年度比) ● 構内外の巡視 月1回以上
	<ul style="list-style-type: none"> ● ノーカーデー運動を実施し、二酸化炭素排出量を年間15ton削減します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間13.3tonの削減をしましたが、目標未達成となりました。車両通勤者の減少を考慮して2016年度の目標を新たに設定します。 	●●	<ul style="list-style-type: none"> ● ノーカーデー運動を実施し、二酸化炭素排出量を年間13.5ton削減します。
地球環境改善への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境改善に貢献する製品・事業の創出を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫緊の課題となっている新製品開発の進捗管理を実施。本年計画した課題や進捗について予定通り進捗できました。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境改善に貢献する製品・事業の創出を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷低減の顧客ニーズを社内へフィードバックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷の少ない製品を促進するため、提案型営業を推進し顧客訪問展示会、技術交流会により、得た情報を社内へフィードバックしました。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷低減の顧客ニーズを社内へフィードバックします。
環境保全啓発	<ul style="list-style-type: none"> ● 分別廃棄・削減・再利用活動(計量を含む)を実施し、エコプラ率75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスチック類全体の廃棄量削減及びエコプラ(マテリアルリサイクル、熱リサイクル品)率74.2%で目標を達成することができませんでした。 	●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 分別廃棄・削減・再利用活動(計量を含む)を実施し、エコプラ率75%以上
	<ul style="list-style-type: none"> ● 分別廃棄・削減・再利用活動(計量を含む)を実施し、紙類リサイクル率95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙類の分別廃棄・削減・再利用などを進め、93.6%のリサイクルを図りましたが、目標を達成することができませんでした。 	●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 分別廃棄・削減・再利用活動(計量を含む)を実施し、紙類リサイクル率95%以上
	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発する新製品・改良品の鉛・ヒ素フリー化の継続実施 ● 取引先の環境体制調査及び評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品・改良品の鉛・ヒ素フリー化は予定通りに進捗しました。 ● 調査表を見直しし、予定した調査依頼及び評価が完了しました。 	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発する新製品・改良品の鉛・ヒ素フリー化の継続実施 ● 取引先の環境体制調査とその評価及び教育を実施します。

マテリアルバランス

オハラは事業活動におけるエネルギーや資源の投入(INPUT)と、その活動に伴って発生した製品や環境負荷物質(OUTPUT)を定量的に把握し、環境保全活動に展開しています。



環境マネジメント

■ 廃棄物の削減・再利用

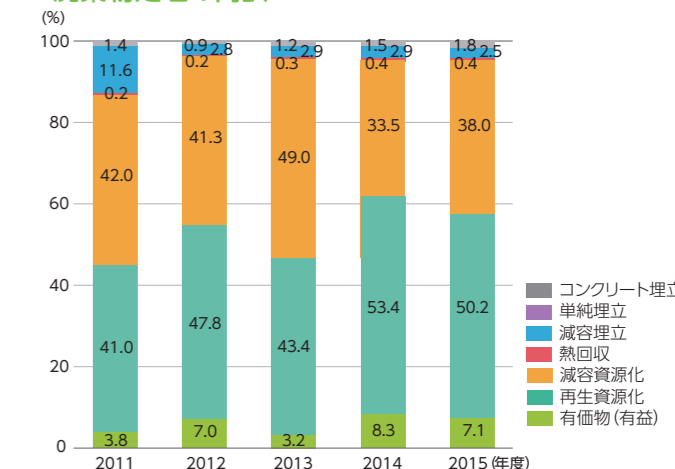
廃棄物量の内30%以上を廃棄ガラスが占めています。そのため、生産部門においてはガラス溶解時の生産性アップに向けた施策や、廃棄ガラスの再利用に取り組み、また止む無く廃棄する際も細かく分類廃棄することで、一部有価物化が可能となっています。限りある資源を有効に無駄なく利用するため、全社の目的・目標を掲げ活動を行っています。



リサイクルされる廃棄ガラス



廃棄物処理の内訳



省エネルギー

■ 省エネルギー・省資源への取り組み

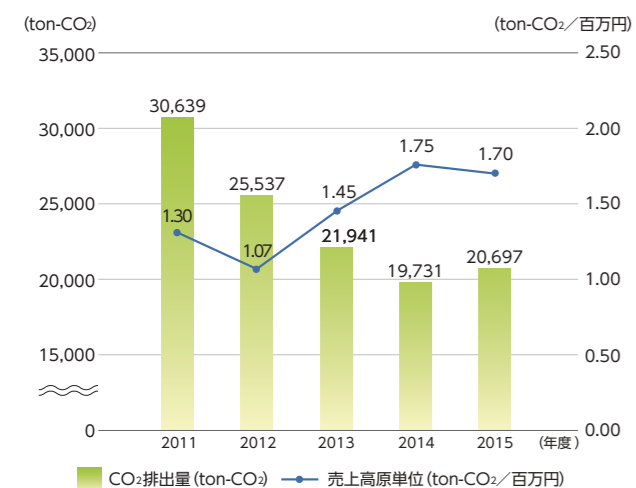
ガラスの製造では多くのエネルギー（電気、都市ガス）を消費します。これまで様々な設備改善によるエネルギー使用量の抑制、生産効率アップを狙った改善活動などに努めてまいりましたが、2013年度以降は市況の悪化により効率的な生産を維持することが困難となり、2015年度の売上高原単位は、エネルギー使用量、CO₂排出量ともに前年度比で若干の改善に留まりました。

オハラは、環境プログラムによる各部門での省エネ活動と

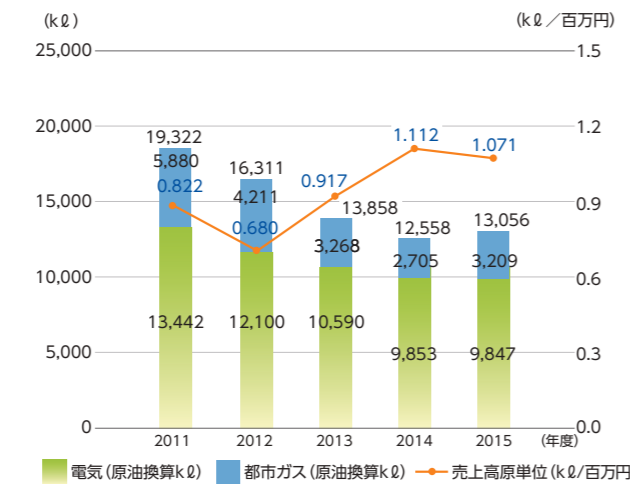
して、毎年厳しい目標を設定しエネルギー使用量やCO₂削減に一人ひとりが高い省エネ意識を持って取り組んでいます。これからも全社一丸となって推進していきます。

また、省資源に関しても、3R（Reduce：減らす、Reuse：繰り返し使う、Recycle：再資源化）活動を各種委員会や全社運動によって推進し、今後も限りある資源を有効に活用するよう活動していきます。

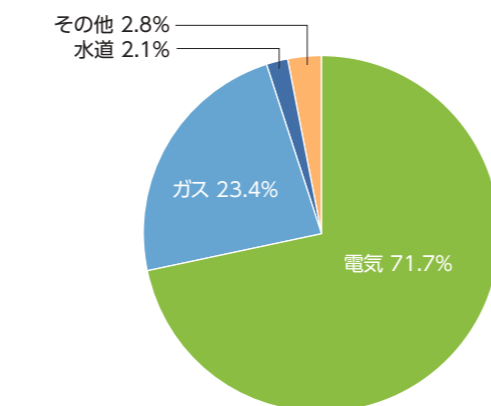
CO₂排出量



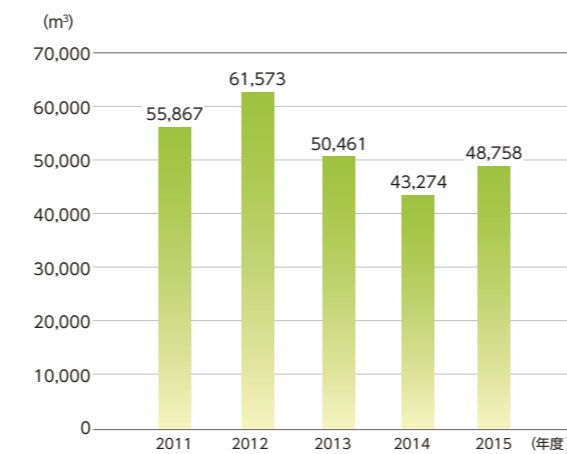
電気・ガス使用量 (原油換算)



エネルギー使用量内訳 (金額ベース)



水資源の使用量



地域社会の環境調和

■ 相模川クリーン作戦

山中湖を水源として、相模湾に注ぐ相模川が、オハラ本社がある相模原市を流れています。

周辺には貴重な自然が広がり、スポーツや季節を楽しむ憩いの場となっています。

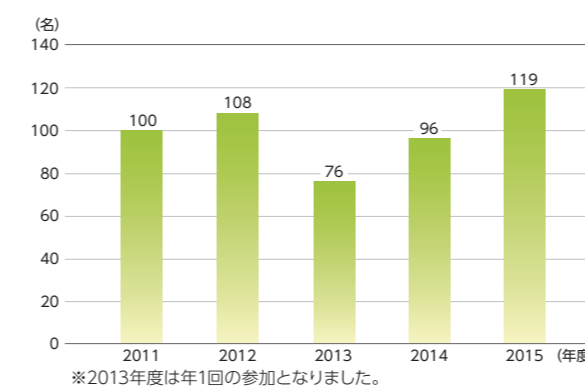
そのような豊かな自然を守るため、相模川を愛する会が主催となり年2回「相模川クリーン作戦」が実施されています。市内の団体・個人とともに、オハラ社員やその家族も、河川敷の一斉清掃活動に参加しています。

未来へつなげる環境保全活動をこれからも続けていきます。



清掃活動の様子

相模川クリーン作戦 参加人数



■ 工場緑化推進全国大会で表彰

相模原市より市内の緑化優良工場として推薦を受け、2015年11月2日に開催された第34回工場緑化推進全国大会において一般財団法人日本緑化センターより会長賞を受賞いたしました。

今後も工場周辺との調和を図りながら「緑豊かな公園工場」を目指し、人と自然をつなぐ取り組みのひとつとして地域社会への貢献を行ってまいります。



表彰状授与式



■ ノーカーデー運動

公共交通機関、徒歩、自転車による通勤を推奨して、CO₂排出量の削減に努めています。ノーカーデー運動強化固定日の設定、メールや掲示などによる呼びかけを積極的に行うことで、車通勤から徒歩や自転車での通勤方法に変更する社員も増加してきました。

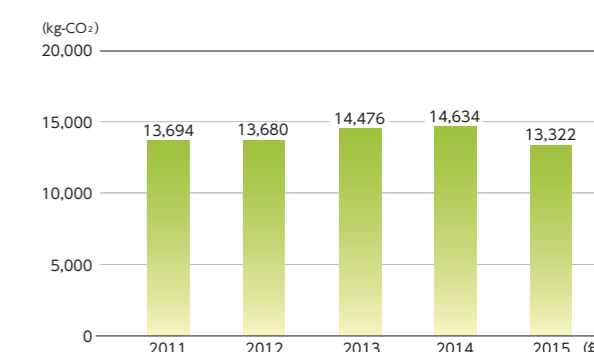
■ 朝の清掃活動

2004年より周辺地域の美化を目的として、隣接する企業とともに隔週金曜日の早朝にオハラ外周付近の清掃活動を行っています。



朝の清掃活動の様子

自動車通勤に伴うCO₂排出量

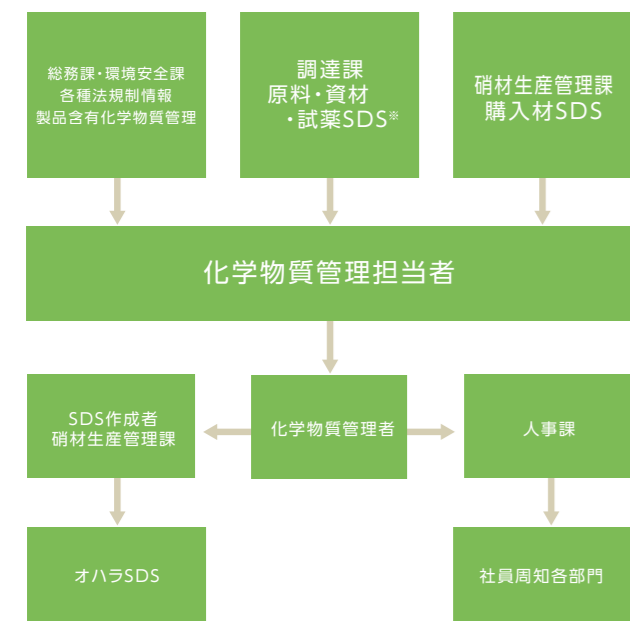


環境保全啓発

■ 化学物質管理の重要性

刻々と変化している国際的な環境関連法規に対し、常に最新情報の入手に努め、社内関係部門に配信しています。また、お客様からの化学物質に関するお問い合わせに迅速に対応できるよう体制を整えています。

環境方針にも製品含有化学物質管理の必要性を示し、全社教育をはじめ、製品の設計・開発段階での鉛・ヒ素フリー化や、購入するガラス原料の不純物分析、工程での徹底した不純物質による汚染防止などに取り組んでいます。今後もサプライチェーンにおける化学物質の管理強化を推進していきます。



※ SDS：化学物質及びそれらを含む製品の性状と取り扱いに関する情報

■ プラスチック類の分別廃棄・削減・再利用

職場で発生するプラスチック類は、*RPF原料にできるもの（エコプラ）とできないもの（雑プラ）に分別し、計量管理をしています。

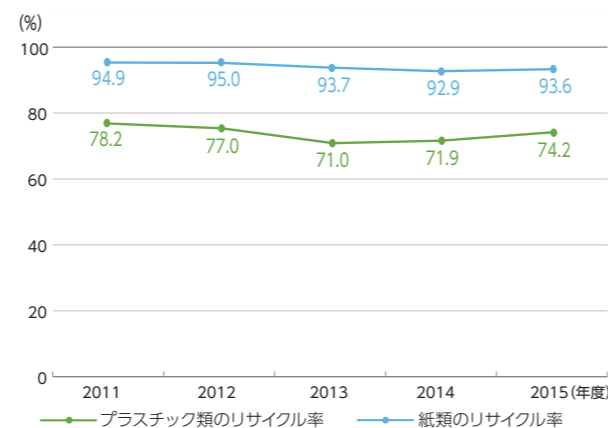
2015年度は、通常の生産業務では目標をクリアしていましたが、突発でエコプラにならない廃棄物が大量に発生してしまい、最終的にはエコプラ率が74.2%に留まりました。引き続き、エコプラへの分別推進を行っていきます。また、ペットボトルキャップの寄付活動は今年で8年目となり、延べ1,000人分のワクチンに相当する実績を達成しました。ペットボトルの有価物回収も併せて継続して取り組んでいます。

* RPF:Refuse Paper & Plastic Fuelの略。主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及びプラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料

■ 紙類の分別廃棄・削減・再利用

関係者による全職場の紙類の分別パトロールを実施し、それぞれの職場に対応した分別方法を指導しました。2015年度はリサイクル率が93.6%と前年度と比較して改善され、目標である95%まであと一步のところまでできています。今後も目標達成に向けて、継続して取り組んでいきます。

プラスチック類及び紙類のリサイクル率



■ PCB含有機器の調査及び管理

現在オハラではPCB含有機器（トランス・コンデンサ・蛍光灯安定器）を保有しており、これらの機器は2027年3月31日までに適切に処分しなければなりません。現在使用中の機器もありますので、計画的にPCB含有機器の調査を実施し、法令に則り適切に対応していきます。

私たちは、社員の人権・人格を尊重し、企業理念の精神を育むとともに、安全で働きやすい労働環境を確保し自由闊達な企業風土をつくります。

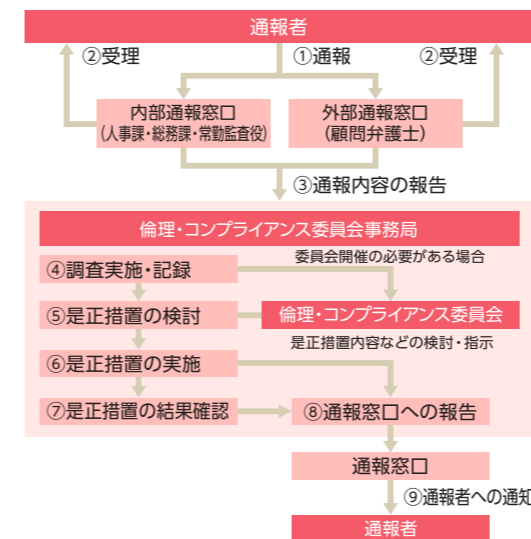
人権に対する取り組み

■ 人権に関する考え方

オハラでは、行動規範ガイドラインにおいて、『業務の遂行に関係ない、人種、国籍、肌の色、言語、性別、宗教、信条、年齢、出身、身体的障害その他のどのような理由においても差別をしません。また誹謗（ひぼう）、中傷、嫌がらせ、つきまとい、脅迫、粗暴行為その他の個人の人権や尊厳を無視した言動は厳に慎み、相手に不快な思いをさせません。』と定め、全社員の人権に対する意識高揚に取り組んでいます。

■ 内部通報（ヘルプライン）制度

相談者（通報者）が直接「倫理・コンプライアンス委員会」に相談（通報）するための内部通報（ヘルプライン）制度を設けています。2013年4月より内部通報窓口（常勤監査役）に加え、外部通報窓口の受付を顧問弁護士（牧野友香子）が担当するなど、利用しやすい環境づくりに努めています。



オハラの人材育成

■ 人材育成に関する考え方

企業が持続的成長と発展をするためには、外部環境変化に即応・予応し事業や組織を変革し続けていく必要があります。しかし、変革は事業や組織を変えただけでは達成できません。変革実現には個人個人が成長し変革の核となることが重

要です。オハラでは新入社員研修から始まる各年代の節目研修（若手研修・30歳・40歳・50歳）に加え、個々の社員に関連する専門教育（マネジメント研修）を組み入れた教育訓練体系により、自立した人材育成を目指しています。

社員教育の概要

- ① マネジメント上級研修**
新たに部長・次長に任ぜられた社員及び新たにその職群等級に昇格した社員を対象に、毎年社外教育研修を実施しています。
- ② マネジメント中級研修**
新たに課長・課長補佐（課長相当職を含む）に任ぜられた社員及び新たにその職群等級に昇格した社員を対象に、毎年講師を招いて社内で教育研修を実施しています。
- ③ マネジメント初級研修**
新たに係長・係長補佐に任ぜられた社員及び新たにその職群等級に昇格した社員を対象に、毎年講師を招いて社内で教育研修を実施しています。
- ④ 若手社員研修**
原則として新卒入社後3年目の社員に対して実施します。社会人としての自覚を持ち始める一方、中だるみも生じやすいこの時期に、やる気を促すとともに基礎的なスキルを身に付けさせます。講師を招いて社内で教育研修を実施しています。
- ⑤ コミュニケーション能力向上研修**
若手社員研修を終了後、マネジメント初級研修受講までの間に講師を招いて社内で実施しています。職場におけるコミュニケーションと後輩を指導するにあたりどう接したら良いかを学びます。
- ⑥ 節目研修（キャリア研修）**
役職を問わず30歳・40歳・50歳の節目を迎えた社員に対して講師を招いて社内で実施しています。これまでの自身の人生を振り返り、その後の自分をどうするかを考える場として、自立自覚を促すことを目的としています。

働きやすい職場環境づくり

■ ワークライフバランスの考え方

全社運動として「時間外ゼロ」「定時退社率100%」を目指し2006年より働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。目的のひとつとして「ワークライフバランスの実現」があります。仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に家事、育児、介護、近隣との付き合いなども暮らしに欠くことのできないものです。「繋がり」を成し遂げてこそ生きがいや喜びが倍増します。

しかし現実には、仕事による心身の疲労で健康を害したり、仕事と家庭の両立に悩んだりと問題を抱える人が多くみられます。このような状況に陥らないためにもオハラはワークライフバランスのとれた「充実した人生」の実現に向けて取り組んでいます。

ボイス VOICE

特殊品事業部
特殊品BU
特殊品営業課
内田 可奈子



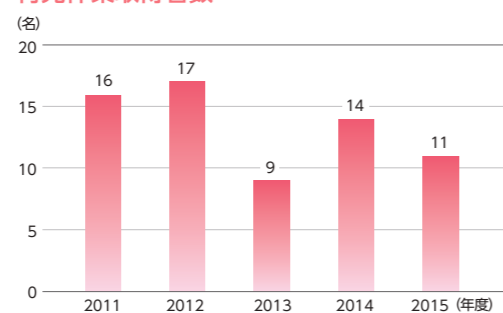
○ 子育て支援制度を利用して

オハラの子育て支援制度は本当に充実しています。前職では過酷な条件の中、職務に携わる女性達を見ていました。当時は仕事と子育ての両立なんて想像もできませんでしたが、私が今、一社員・母親として自分らしい生活を送ることができているのは、恵まれた子育て支援制度のお蔭だと実感しています。職場復帰により社会での個人という立場も確立でき子育てにも余裕が出ました。この様な環境を整えて下さるオハラ、また職場の方々のご理解とサポートに日々感謝しつつ、仕事と子育ての両立を邁進していこうと思います。

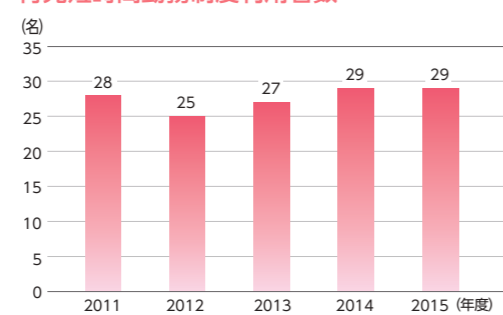
■ 子育て支援制度

育児休業制度や育児短時間勤務制度（小学校就学まで）の充実により働きながら子育てを行う社員を応援しています。育児短時間勤務制度は多くの社員が利用できるようにと、導入時より1時間分の賃金を「有給」としてしています。これは多くの企業が「無給」とする中で会社としても大きな決断でした。2011年には他企業に先駆けたこの取り組みが評価され、相模原市より「仕事と家庭両立支援推進企業」として表彰を受けました。

育児休業取得者数



育児短時間勤務制度利用者数



■ 業務効率化に向けた活動

「製造業における競争力の源泉は生産性であり、その原動力となっているのは社員一人ひとりの働きである」として、オハラでは各部門がそれぞれ効率化に取り組み、全社一丸となって生産性の向上に力を入れています。他企業と競争しても負けない強い企業に成長するために「より少ない人材投入でより大きな付加価値を生み出す」ことを追求し続けています。昨今、ワークライフバランスがセミナーやシンポジウムで提唱されており、まさにオハラが取り組んでいる業務効率化は、ワークライフバランスにつながる活動になります。

「業務効率化」は単なる「コストダウン」に留まらず「同業他社に負けない強い企業」「ワークライフバランス」など多方面に影響を与えており、今後オハラが日本で生き残るための重要な活動のひとつとして継続していきます。

■ 再雇用制度

定年退職者を再雇用する制度を設けています。60歳で定年を迎える社員の多くは「心身健康」でかつ高い「業務遂行能力」を持っています。この再雇用制度により専門的知識や技能が、後進に受け継がれていきます。最近5年間で定年を迎えた37名のうち再雇用を希望した22名(59.5%)全員が再雇用制度のもと活躍しています。

ボイス VOICE

光製品事業部
光材料BU
材料製造一課
久保田 晃



○ 再雇用制度を活用して

2015年3月に定年を迎え、その後再雇用制度を活用し、引き続きオハラに勤務して2年目を迎えようとしています。定年前に従事していたカレット製造関係の仕事を継続して行っており、今までに経験したことや、仕事に従事しながら得られた知識を若い人たちに伝えることで、仕事へのモチベーションも維持できています。

これからも健康に留意し、趣味やボランティア活動などを楽しみながら、オハラに貢献できるように努めていきたいと思えます。

労働安全衛生への取り組み

■ 防災訓練の実施

自然災害はいつ発生するか予知するのが困難です。オハラでは、万一の災害の際に迅速な行動がとれるよう、毎年防災訓練を実施しています。2015年度は避難訓練の中で初期対応訓練、消火訓練、AEDを使用した心肺蘇生訓練と、社内自衛消防隊による放水訓練を実施しました。今後も危機管理の強化に努めていきます。



防災訓練

■ 健康づくり活動支援

オハラでは、社員の健康づくりとして主に
 ・健康関連の講習会開催
 ・健康新聞の発行
 ・生活習慣病対策(健康診断の有所見者への面談と経過観察・特定保健指導の実施)
 ・産業医との連携(体調不良者や健康診断の有所見者との面談)
 ・社内での感染症の流行防止(感染症情報の配信・流行状況の把握や予防対策)
 ・熱中症対策
 を行っています。健康づくりを通して、健康で末長く働ける職場を目指しています。



健康体操講習会の様子

ボイス VOICE

台湾小原光學股份有限公司
総務部 林莉莉



○ 今年で入社29年目になります

総務部の協理(部長相当)として、管理職一同とともに会社運営に取り組み、様々な角度から考え、いろいろな勉強を進めています。業務の質の維持・向上を図り、不祥事を起こすことのないよう、コンプライアンスを重視した経営が重要と考え、社員満足度向上のために、いろいろな制度の導入によるグループの安定的な利益を確保しています。

社員の健康、家庭と仕事を両立できる会社制度の充実、楽しくて働きやすい職場環境作りをするとともに生産性向上の実現を目指しています。

会社概要

Corporate Profile

会社概要 (2015年10月31日現在)

商号 株式会社オハラ
 所在地 〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山 1-15-30
 TEL 042-772-2101 (代) FAX 042-774-1071
 創立 1935年10月1日
 資本金 58億5千5百万円
 事業内容 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造・販売
 従業員数 409名 (グループ全体 1,657名)

営業品目

- 光製品
 - ・光学ガラス
 - ・ガラスモールド用低Tg光学ガラス
 - ・球面レンズ用プレス品
 - ・球面レンズ
 - ・ガラスモールド用研磨プリフォーム
 - ・非球面ガラスモールドレンズ
- エレクトロニクス製品
 - ・極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)
 - ・耐衝撃、高硬度クリアガラスセラミックス
 - ・耐放射線光学ガラス
 - ・高膨張ガラスセラミックス (WMS™-15)
 - ・フライングハイトテスター用ガラスディスク (GD-FHT™)
 - ・リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™)
 - ・高透過率ファイバー用ガラス
 - ・i線用高均質性光学ガラス
 - ・装飾用ガラス
 - ・各種石英製品
 - ・ガラス・セラミックス関係の計測サービス

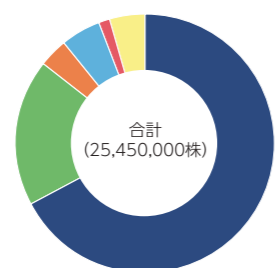
株式情報 (2015年10月31日現在)

株式の状況
 発行可能株式総数 76,000,000株
 発行済株式の総数 25,450,000株
 株主数 4,641名

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
セイコーホールディングス株式会社	4,702,722	19.3
キヤノン株式会社	4,694,380	19.3
京橋起業株式会社	4,688,400	19.3
三光起業株式会社	1,638,300	6.7
株式会社トプコン	673,600	2.8
セイコーインスツル株式会社	610,000	2.5
株式会社みずほ銀行	400,000	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	204,500	0.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	180,300	0.7
MSIP CLIENT SECURITIES	143,600	0.6

(注)出資比率は、自己株式(1,124,538株)を控除して計算しています。

所有者別株式数分布状況



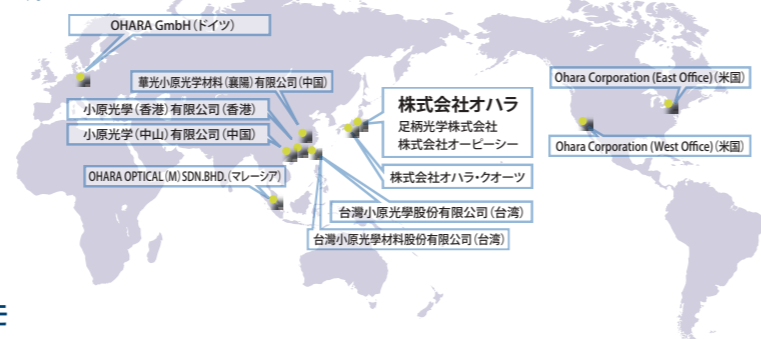
- その他の国内法人 67.2% (17,109,102株)
- 個人その他 18.6% (4,733,731株)
- 外国法人など 3.4% (874,440株)
- 金融機関 5.2% (1,318,600株)
- 証券会社 1.2% (289,589株)
- 自己株式 4.4% (1,124,538株)

役員一覧

代表取締役 社長執行役員	齋藤 弘 和	社外取締役	小泉 達也*
取締役 専務執行役員	関戸 仁	社外取締役	内田 省寿*
取締役 常務執行役員	中島 隆	常勤監査役	久保田 桂詞
取締役 常務執行役員	青木 哲也	社外監査役	三上 誠一
社外取締役	内藤 昭男	社外監査役	脇屋 相武
社外取締役	眞榮田 雅也	社外監査役	杉田 光義*

(※)社外取締役小泉達也、内田省寿及び社外監査役杉田光義の3名は独立役員であります。

グループ会社



株主メモ

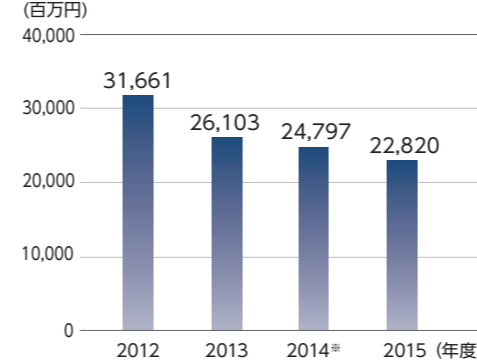
事業年度 毎年11月1日～翌年10月31日
 剰余金の配当基準日 10月31日(中間配当を行う場合は4月30日)
 定時株主総会 毎年1月下旬
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1-2-1
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 公告方法 電子公告
 (http://www.ohara-inc.co.jp/)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社などに口座をお持ちの場合	証券会社などに口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
お取扱店		みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットプース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社などに口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

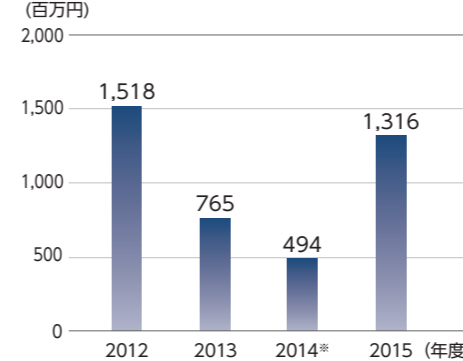
連結決算ハイライト

Consolidated Financial Highlights

売上高



経常利益



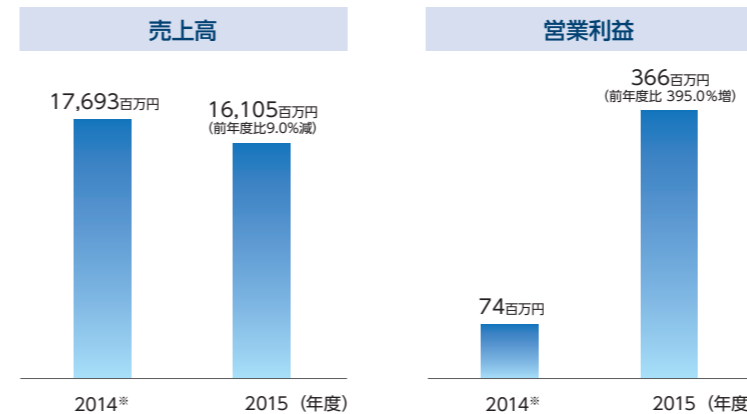
※ 2014年度より、オハラグループの経営管理の効率化を図るため、連結子会社の各社決算日を連結決算日に変更しました。この変更により2014年度は、決算日が8月31日の連結子会社については2013年9月1日から2014年10月31日までの14ヶ月間、決算日が9月30日の連結子会社については2013年10月1日から2014年10月31日までの13ヶ月間を連結しています。

セグメント概況

光事業 70.6%

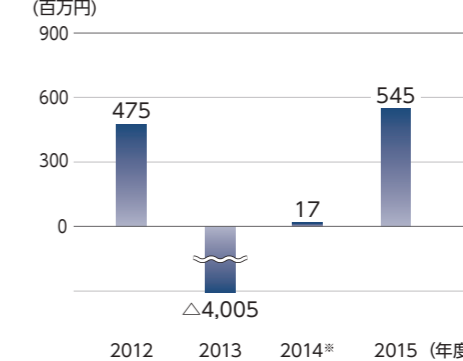
○ 2015年度の概況

光事業の売上高は16,105百万円(前年度比9.0%減)、営業利益は366百万円(同395.0%増)となりました。決算期を変更した連結子会社の2013年9月及び10月の2ヶ月間(一部子会社は2013年10月の1ヶ月間)における業績を除いた前年度は、売上高が15,673百万円、営業損失が234百万円であります。この値と比較すると、売上高は、デジタルカメラ市場の回復が見られず、需要が弱含みで推移したことから、前年度比2.8%増に留まりましたが、原料調達の改善などにより、営業利益を計上しました。

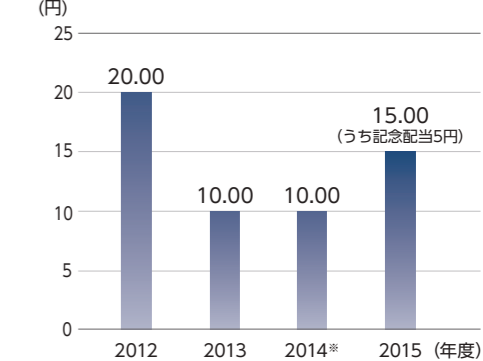


※ 2014年度より、オハラグループの経営管理の効率化を図るため、連結子会社の各社決算日を連結決算日に変更しました。この変更により2014年度は、決算日が8月31日の連結子会社については2013年9月1日から2014年10月31日までの14ヶ月間、決算日が9月30日の連結子会社については2013年10月1日から2014年10月31日までの13ヶ月間を連結しています。

当期純利益



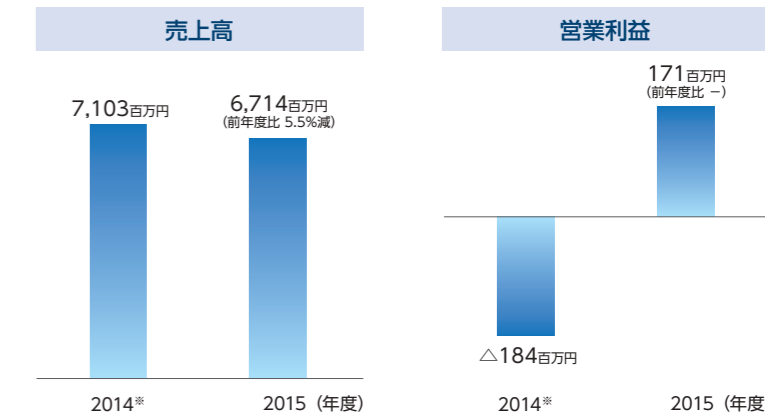
1株当たり配当金の推移



エレクトロニクス事業 29.4%

○ 2015年度の概況

エレクトロニクス事業の売上高は6,714百万円(前年度比5.5%減)、営業利益は171百万円(前年度は184百万円の営業損失)となりました。決算期を変更した連結子会社の2013年9月及び10月の2ヶ月間(一部子会社は2013年10月の1ヶ月間)における業績を除いた前年度は、売上高が6,422百万円、営業損失が86百万円であります。この値と比較すると、売上高は、宇宙・天文向け及び露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスや、半導体露光装置向け高均質ガラスの販売が増加したことから、前年度比4.5%増となりました。また、これら製品の生産効率が改善したことなどにより、営業利益を計上しました。



OHARA

株式会社 オハラ

〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
TEL:042-772-2101(代) FAX:042-774-1071
ウェブサイト: <http://www.ohara-inc.co.jp/>



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。